

地域の人を雇用するなど地域の活性化に非常に役立っているという例がある。住んでいる人の発想ではなかなかそのようなものを作って加工して販売してというようなことを考えつかないが、移住してきた人が今までにない見方でいろいろなことを発想したり、売り場を探したりすることによって市場を広げていくというような可能性がある。

地域の側としてもできればそのような人々を誘致する何らかの努力をする方がよいと思う。特に最近では、食の関係で優れた人ということで、腕の良いシェフが一人入ってきて、良いレストランが1軒できれば、全国からお客さんが集まってくる。これはソバ屋でも同様で、有名なソバ打ち職人が一人来れば、そこにお客さんも集まってくる。そして、人が集まってくれば帰りに道の駅などで物産を買って帰るなどの形で地域にお金が落ちるといように、諸々の経済効果が生まれてくる。人と人との交流が生まれてくるということで、そのような優れたノウハウや技術を持つ人を積極的に誘致していくことが非常に大事ではないかと思う。

#### (9) 移住者とのトラブルについて

ただ、移住者が入ってくることはプラス面のことばかりではなく、その一方ではトラブルも発生する。これはどちらかが悪いという極端な例はあまりなく、多くの場合はミスマッチによるものである。地域の人たちは「これは当然だ」と思っているし、都会から来た人たちは「これが当然だ」と思っているのである。つまり、当然だと思えることが異なっているのである。特に異なっているのは地域を維持することに通ずる考え方で、都会の人たちは、その良し悪しは別にして、地域環境を維持するのは行政の役割だというように、行政が全部やってくれろと思っている。ところが地域の人たちは、行政は主なものはもちろんやるが、その他のことは全部自分たちでやるのが当然だと思っている。そうなるとこれは相当もめることになる。そのような意識のズレがまず根底にあって、それらのすり合わせがきちんとできていないとトラブルが発生する。

もちろん、移住者が傲慢であるということも結構ある。例えば、おれは大会社の部長だったとかいう意識がもしあって、それをひけらかせば、やはり地域の側はおもしろくないということで起こるトラブルもある。移住者がそのような過去からの意識を引きずっているとなかなかうまく地域に入れない。

これには特別な解決策はなく、起こってくるトラブルもケースバイケースである。これには未然に防げる場合と未然に防げない場合があるが、未然に防げる場合は、面倒見のよい人がよく説明してあげて、情報欠落による初歩的なミスを減らすような努力をしたり、マニュアルのようなものを用意して、移住者によく読んでもらい、納得したら入ってもらうなど、いろいろな方法があると思う。

また、移住してくる人が病気を持っていたり、福祉が必要であったり、高齢である場合には、福祉や医療費の負担が増えるかもしれないという懸念があって、あまりにこれらの懸念が大きいと、高齢者はお断りという話が今まで相当あった。

この問題に絶対的な解決策はないと思うが、移住者が増えることによって医療費が増大したという例は今までに聞いたことがない。もちろんそのような人は何人かはいると思うが、そもそも移住しようとするのは比較的健康な人が多いということと、移住して体を動かせば、それ自体で健康増進にもなるということがあるのだと思う。

そのようなことでこの問題についてはリスクはあるが、初めから受入れを拒否するのは差別につながるし、また、新しい人が入ることによって地域がもっと活性化するような可能性を排除することにもなる。リスクはリスクとして考えながらも、それだけを考えて移住を拒否するのはやはり少し違うのではないかと思う。

#### (10) 取組み例～ワーキングホリデー～

移住者受入れに関して全国で多くの自治体が様々な取組みをしているが、一例としてワーキングホリデーを紹介する。